

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	スポーツコミュニケーションスクール カラフル・金沢 元菊校		
○保護者評価実施期間	2026年2月16日		2026年2月23日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	1 (回答者数)	1
○従業者評価実施期間	2026年2月16日		2026年2月23日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8名	(回答者数) 8名
○事業者向け自己評価表作成日	2026年2月26日		

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	お子さん一人ひとりの発達特性やニーズに応じたオーダーメイドプログラムを提供しており、効果的な成長促進が可能。	サッカーやバスケットボールなど、曜日ごとに変化を持たせた多彩な運動プログラムを導入。楽しみながら積極的に参加できる工夫をしている。	地域のスポーツクラブや学校との連携による合同イベントの企画。地域コミュニティへの積極的な参加を通じ、お子さんの興味関心の幅を広げ、相互支援体制を構築する。
2	広大な運動場を完備しており、お子さんがのびのびと身体を動かせる環境がある。体力向上だけでなく、ストレス発散にも大きく寄与している。	社内外の研修やワークショップに積極的に参加し、常に最新の支援技術を取り入れ、支援の質の向上を図っている。	オンラインプログラムの提供や、デジタルプラットフォームを活用した情報共有システムの構築。保護者がより詳細にお子さんの様子を把握できるフィードバック体制を目指す。
3	発達や身体機能に精通した専門知識を持つ職員が常駐し、精度の高いサポートを行っている。また、職員間のコミュニケーションが円滑で関係性が良く、温かく安心できる支援環境が構築されている。支援内容についての相談しやすい環境である。	日々の詳細な送り(フィードバック)や親子参加型イベントの開催により、家庭との絆を深めている。家庭で取り入れられる運動方法の紹介も行っている。	外部講師の招聘や備品の充実を図り、競技技術だけでなく、「協調性・コミュニケーション・気持ちの切り替え」といった社会性の育成に焦点を当てた支援を強化する。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	運動場の広さは十分だが、一部劣化や暑さ寒さ対策の遅れがある。また室内整備も限られており、悪天候時に運動プログラムの実施が難しく、活動内容が制限される。運動施設と事務所が別の場所であったり、事務所やアパート内に個室空間がない。	設備改善や人員拡充、老朽化対策への予算が限られている。事務所の広さ不足や、アパートにおける学習スペース・個室の欠如。	優先順位を精査して資金を配分するとともに、助成金の活用も検討する。室内外の活動環境を整備し、天候に左右されず効果的な支援ができるようにする。
2	見守り、送迎などの人員確保が難しく、職員の負担増が支援の質に影響する懸念がある。特に特定のスキルを持つ専門職の確保が困難。	発達支援に高度な専門性が求められるため、適した人材の見極めが難しい。特に地方・郊外では資格保持者が限られている。	職員が働きやすい環境作りと福利厚生の実施を図る。研修プログラムを拡充して職員の専門性を高め、長期的な人材確保と質の向上を目指す。
3	保護者や相談員との連携は取れているが、幼稚園や保育園との連携が不足しているため、対応できる子どもの数や質が限られ、他機関との情報交換の機会が少ない。放デイ単体での存在になりがちである。	地域の幼稚園や保育園との連携が不足している要因として、コミュニケーション不足が挙げられる。互いのニーズを理解しきれていないため、協力体制構築が遅れている。	担当窓口を設置し、定期的な会議や送迎時のコミュニケーションを通じて学校との繋がりを強化する。教育現場のニーズを把握し、より効果的な支援を提供する。